

編集後記

海外旅行とまではいかなくても、子どもを連れて出かけるのは一苦労です。最近はベビーカーに対して社会もだいぶ寛容になってきていますが、迷惑をかけて申し訳ないという気持ちでいるだけでもそれなりにストレスなはず（そうでもないような人もいますが…）。私も子育て経験者ですが、今思うと子どもが幼い時の旅行にどれほど意味があったかと後悔している部分も多々あります。4歳の娘をスキーに連れて行き、リフトは膝に乗せて上まで上がり、開いたスキーの間に挟むようにしてゆっくりゆっくり滑り降りて、さぞ喜んでいて顔を見込んだら、本人は眠っていたということがありました。また、子どもは旅行の時に限って体調を崩すという感覚をお持ちの方も多いと思います。楽しみにしすぎて興奮気味になり、自律神経機能や免疫能がおかしくなるのではないのでしょうか。私の母は「旅行の直前に決まってお前が熱を出すから、あたしゃちっとも旅行に行けなかった」と今でも愚痴ります。

今月号の特集は「子どもと旅行—より安全に出かけるために」です。気管支喘息、食物アレルギー、心疾患、発達障害、てんかんなど基礎疾患をおもちのお子さんの旅行時の注意事項、感染症対策など医学的に重要な事項もさることながら、健康なお子さんの夜尿、乗り物酔い、時差ぼけなどもバカにはで

きない問題です。そもそも交通機関の選択から注意が必要なことはいうまでもありません。WHOは、旅行するという決定、旅行に伴うリスクについての認識と是認、勧奨ワクチンの接種などと並んで、同伴する子どもたちの健康と安全については「旅行者の責任」と定義しています。それと同時に「自分の都合の良い時に健康アドバイスを求めること（旅行の4～8週間前）」というのを「旅行者の責任」としています。医療者とくに小児科医は子どもたちがより健康に、より安全に旅行できるようにサポートする必要があるわけです。

「綜説」では、バイオサイエンスデータベースからの遺伝性腎疾患へのアプローチや、最近概念が固まってきたC3腎症について、さらにDiamond-Blackfan貧血の遺伝子診断について解説をいただいています。「診療」では、顔面神経麻痺症例の検討、最新の小児呼吸器感染症診療ガイドラインの実践について詳述していただきました。また、楽しい動物とのふれあいがHUS発症リスクとなることについて「小児保健」でお読みいただけます。

旅など無縁のお忙しい毎日かもしれませんが、今月号の「小児科」をお読みいただき、少しでも旅行した気分になられるわけではないですね。

（伊藤 保彦）

編集：伊藤保彦・河野陽一・中西敏雄・岡部信彦・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第59巻第8号 7月号

2018年7月1日発行（毎月1回1日発行）

定価（本体2,600円＋税）

年間購読料金

定価（本体41,000円＋税）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕

Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕

Fax 03(3813)0288

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-3513-6969、FAX：03-3513-6979、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。